

地方創生推進交付金 令和2年度事業報告書

資料1

| 事業名 | | 関係人口を活用したサステナブルな地域づくり | | 担当課 | 地域活性課 | | | | | |
|---|---------------------------------|--|-------------|---------|-------------|-------|-------------|----|-------|----|
| 事業の背景 | | 2016年度から関係人口の創出・拡大に係る取組みを実施しており、現在840名を超える登録がなされている。関係人口との交流を図るワークショップの開催や継続的な情報発信等により、本町への理解・関心の深化を図るとともに「三木町と関わりたい」「何か協力したい」という主体性を持つ関係人口の存在も明らかとなっている。これら意欲ある関係人口を活かし、地域外住民による地域活性化モデルの実現を目指す。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (目的、対象、手段等を含め取組内容を簡潔に記載。検討中の取組については現時点で記載できる限り記載すること) | | 関係人口の“スキル”や“想い”の可視化や、三木町の魅力・課題への理解の深化を図ることで、関係人口自身による自立的な取組みが生まれる環境を醸成する。また、地域側においても埋もれている資源や地域課題を可視化するとともに関係人口への理解を醸成することで、関係人口を受け入れられる環境を醸成する。その上で、関係人口に対し、「地域に関与できる仕組み」を提案し、関係人口が主体となった本町の魅力発信や、ふるさと思いやり寄附、地域への訪問が生まれる自立的、継続的な流れを創出する。 | | | | | | | | |
| 事業により見込まれる効果 | | 関係人口同士の横のつながりを強化する仕掛けを施すとともに、関係人口の持つスキルや想いを可視化することで、まちづくり活動等に意欲を持つ者を具現化するなど、これまで培ってきたノウハウを活かした更なる取組みの発展を目指すことにより、抽出された地域住民と自主的な関係人口が交流・連携し、地域課題の解決を図る地域活性化モデルを目指す。 | | | | | | | | |
| 予算額・決算額 | | 年度 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | | | | |
| | | 特定財源 | 国支出金 | 1,523千円 | 2,082千円 | 千円 | | | | |
| | | | 県支出金 | 千円 | 千円 | 千円 | | | | |
| | | | 地方債 | 千円 | 千円 | 千円 | | | | |
| | | | その他 | 千円 | 千円 | 千円 | | | | |
| 一般財源 | | 1,523千円 | 2,082千円 | 千円 | | | | | | |
| 重要業績評価指標 (KPI) | 指標 | 当初値 | 令和2年増加(目標値) | | 令和3年増加(目標値) | | 令和4年増加(目標値) | | 最終目標値 | |
| | | | 令和2年増加(実績値) | | 令和3年増加(実績値) | | 令和4年増加(実績値) | | 実績累計値 | |
| | 三木町からの協力要請が可能な関係人口の数 | 10 | 10 | 人 | 10 | 人 | 10 | 人 | 30 | 人 |
| | | | 10 | 人 | 0 | 人 | 0 | 人 | 10 | 人 |
| | 地域課題の洗い出し等に協力し、関係人口の受入可能性のある集落数 | 1 | 1 | 集落 | 2 | 集落 | 2 | 集落 | 5 | 集落 |
| | | | 1 | 集落 | 0 | 集落 | 0 | 集落 | 1 | 集落 |
| | 関係人口と地域住民や企業とのマッチングの成立数 | 0 | 1 | 組 | 1 | 組 | 1 | 組 | 3 | 組 |
| | | | 1 | 組 | 0 | 組 | 0 | 組 | 1 | 組 |
| | 本事業へ関わったふるさと納税返礼品事業者 | 3 | 4 | 社 | 3 | 社 | 3 | 社 | 10 | 社 |
| | | | 4 | 社 | 0 | 社 | 0 | 社 | 4 | 社 |
| 取組評価 | B | 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが開催できず、関係人口が直接、地域活動に参画できる機会を創出できなかったため、KPIの達成に苦慮した。そのような中でも、関係人口が、地域に関与できる仕組みづくりを目指し、ふるさと住民票会報紙にふるさと住民による記事を掲載するなどの関係深化を図ったところである。 今後は、交流のあり方を見直し、直接的な交流イベントだけではなく、オンラインイベントなどの方法を用いることにより、全国の関係人口が手軽に参加でき、かつコロナ禍に対応したイベント開催方法も活用し、関係人口との連携による地域活性化の方策を検討する。 | | | | | | | | |

地方創生推進交付金 令和2年度事業報告書

| 事業名 | | kit*funプロジェクト～交流人口から生まれる持続可能な地域づくり～ | | | | 担当課 | 地域活性課 | | | | |
|---|-----------------------|--|---|---|-------------|-----|-------------|---|-------|---|--|
| 事業の背景 | | 本町の伝統芸能である獅子舞や、ありのままの田園風景や街並みといった地域資源を活かして、住民や来訪者が本町での楽しみ(fun=ファン)に身近に触れることのできる環境をつくることで、交流人口拡大による経済の活性化を図る。そして、住民の交流促進による地域コミュニティの強化、住民の健康増進を実現することで、地域創生を目指す。 | | | | | | | | | |
| 事業概要 (目的、対象、手段等を含め取組内容を簡潔に記載。検討中の取組については現時点で記載できる限り記載すること) | | 町内に50ほど存在する獅子舞の団体・獅子連の各固有の歴史や文化、集落単位で開催する小規模な獅子連の演舞情報等、埋もれている地域資源を一元的に集約し、「獅子の里 みき」として町内外に情報発信する仕組みを作りだす。 また、歩くことを楽しむための道である「フットパス」やサイクリングコースを整備するため、住民及び町外の関係人口との協働作業によりルート作成、マップづくり等に取り組み、来訪者が地域の魅力を感じながら、徒歩や自転車で周遊できる環境を整備する。 これらのプロセスを通じて観光・交流事業の運営主体の育成、住民の持つ町への愛着やシビックプライドの醸成、住民と関係人口との人的交流の拡大を図る。 | | | | | | | | | |
| 事業により見込まれる効果 | | 住民や来訪者が身近に町の魅力に触れ合える環境作りをきっかけとして、住民相互や町内外のコミュニケーションを活性化することで、交流人口の増大や将来の移住人口の確保、地域コミュニティの強化の実現が可能となる。 | | | | | | | | | |
| 予算額・決算額 | | 年度 | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | | / | |
| 特定財源 | | 国支出金 | 3,431千円 | | 4,340千円 | | 1,225千円 | | | | |
| | | 県支出金 | 千円 | | 千円 | | 千円 | | | | |
| | | 地方債 | 千円 | | 千円 | | 千円 | | | | |
| | | その他 | 千円 | | 千円 | | 千円 | | | | |
| | | 一般財源 | 3,431千円 | | 4,837千円 | | 1,254千円 | | | | |
| 重要業績評価指標 (KPI) | 指標 | 当初値 | 平成30年増加(目標値) | | 令和元年増加(目標値) | | 令和2年増加(目標値) | | 最終目標値 | | |
| | プロジェクトに関与したふるさと住民の人数 | 0 | 10 | 人 | 20 | 人 | 30 | 人 | 60 | 人 | |
| | | | 10 | 人 | 32 | 人 | 0 | 人 | 42 | 人 | |
| | 運営事務局参加者 | 0 | 0 | 人 | 5 | 人 | 10 | 人 | 15 | 人 | |
| | | | 0 | 人 | 5 | 人 | 4 | 人 | 9 | 人 | |
| | フットパス・サイクリングプログラム参加者数 | 0 | 50 | 人 | 100 | 人 | 200 | 人 | 350 | 人 | |
| | | | 45 | 人 | 82 | 人 | 0 | 人 | 127 | 人 | |
| | レンタサイクルの貸出件数 | 0 | 0 | 件 | 200 | 件 | 1,000 | 件 | 1,200 | 件 | |
| | | | 0 | 件 | 19 | 件 | 0 | 件 | 19 | 件 | |
| | 取組評価 | B | 獅子舞プロモーション事業に関しては、町の伝統芸能である獅子舞の魅力をPRするためのグッズを制作し、町内外問わず三木町の獅子舞を知ってもらうためのツールを整備するとともに、制作した冊子を町内の獅子連に配布することで獅子連で活動する住民のシビックプライドの醸成にもつなげることができた。 また、フットパス・サイクリングロゲイニングのイベントでは新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、町の隠れた魅力を発掘し、町内外へ発信することで住民の持つ愛着や関係人口の関心を深めることができた。 | | | | | | | | |